

立正大学博物館 館報

# 万吉だより

MA GECHI NEWS

第 22 号 平成 28(2016) 年 3 月

## 立正大学の経塚研究

館長 池上 悟

天正 8（1580）年以来の関東最古の伝統を誇る立正大学は仏教系大学であり、考古学研究においても一つの重要な分野として仏教考古学を標榜してきました。立正考古学初代の久保常晴博士、2代の坂詰秀一博士とともに、日本の仏教考古学を体系づけられた石田茂作博士の学統であり、その学問系統は現在にも引き継がれています。

石田博士の後に長く立正大学に出講された、東京国立博物館に勤務された三宅敏之氏も石田博士の門下であり、経塚を主要な研究対象とされ講義されてきました。三宅氏の経塚関係資料は、没後に立正大学博物館に寄贈され、特色ある所蔵品となっています。

平成 27 年度の特別展示では、三宅氏の寄贈された経塚関係資料を中心として「経塚の諸相」と題して経塚を取り上げました。経塚は末法の世において釋迦の説かれた教えを記した經典を、弥勒出現の時まで護持するために特製の容器に収納して施設を築造したものであり、さまざまな願いを込めて造営されています。経塚の基本的研究は石田博士によって確立されたものであり、東京国立博物館の三宅氏などが継受されてきました。

経塚造営の起源については、日本で始められたとする考えが一般的ですが、坂詰秀一博士は朝鮮半島における関連遺物の所在を検討して朝鮮半島に起源した可能性を指摘されています。

武蔵地域における経塚は、古代から中世、さらには近世にいたるまで形を変えて造営されています。特に博物館の位置する熊谷市域においては妻沼経塚が著名であり、墓地造営に伴って築造されたものとも考えられています。この経塚関連資料も三宅資料に含まれています。三宅氏はまた、中世後期に特徴的な造形に凝った宝幢形経筒を集成研究されており、現在に至るまでの基本的文献となっています。この論文の関連資料も全て寄贈されており、展示の重要資料としました。

人々は常に現生安穩、後生善処を神仏に願って生活してきました。各時代における様々な遺構と遺物が考古学的に検討され、主要な研究対象となっています。

この典型としての経塚を取り上げ、立正大学博物館所蔵資料を主体として研究現状の一端を総括展示しました。

## 第 10 回特別展 経塚の諸相

平成 28 年 1 月 15 日 (金) から 2 月 27 日 (土) にかけて、立正大学博物館 1 階展示室にて第 10 回特別展「経塚の諸相」を開催しました。

立正大学は、関東最古の伝統を誇る仏教系大学です。このため考古学においても、仏教考古学を第一の題目として研究をすすめて来ました。

当館でも、その伝統を反映して多くの仏教関連資料を所蔵しており、過去の企画展・特別展において仏教遺物関連の展示を行ってきました。

今回の特別展では、仏教考古学の中でも古くから重要な研究対象の一つとなってきた「経塚」を取り上げました。

「経塚」とは、経典を容器に入れ未来仏の出現に期すために造営された「塚」のことを指します。古代から開始された経塚造営は、その後、中世、近世と時代が下るにつれ、異なる様相を呈することが知られています。

第 10 回特別展示では、「三宅敏之氏経塚関係資料」をはじめとする立正大学博物館所蔵の経塚関係資料を展示するとともに、博物館の所在する熊谷の地を含む武蔵地域における経塚を中心に扱いました。また、中世の経塚に関しては、三宅敏之氏経塚関係資料に含まれる六角宝幢形経筒に焦点をあて、経塚造営の背景を探りました。

第 1 部では、「経塚の概要」と題して、古代の埋納の経塚、中世の埋納・廻国の経塚、近世の一石経の経塚・廻国納経と変化する様相を示して、それぞれの時代の人々の願いを明らかにしてみました。

第 2 部では、「武蔵国の経塚」と題し、立正大学博物館の所在する熊谷市を中心として武蔵国における各時代の経塚の様相をまとめました。関連資料として、古代に造営されたと考えられている、朝霞市・宮戸薬師堂山経塚出土資料 4 口 (朝霞市博物館蔵/県指定文化財) を展示しました。また、熊谷市・妻沼経塚の跡地に建立された「経

立正大学博物館 第 10 回特別展

## 経塚の諸相



2016

展示図録表紙

塚之碑」の拓本なども展示しました。

第 3 部では、「立正大学と経塚研究」と題し、本学の考古学研究室と経塚研究の関わりをまとめました。経塚研究の基礎を築いた石田茂作博士、その高弟である三宅敏之氏、そして、立正大学名誉教授・当館元館長である坂詰秀一博士の各経塚関連の業績を紹介し、石田博士の代表的な経塚関係著書である、「経塚」『考古学講座』第 20 巻と『金峯山経塚遺物の研究』を展示しました。

その他、「立正大学博物館蔵経塚関係資料」として、泥塔 5 点 (奈良県・東大福寺)、泥塔経 12 点 (鳥取県・竹内経塚)、瓦経 2 点、(福岡県・飯盛山経塚他)、経石 (東京都・増上寺、千葉県・大椎経塚)、納札及び納経資料 (千葉県・龍正院) を展示しました。

また、「三宅敏之氏経塚関係資料」では、氏の著書、妻沼経塚関連資料 (拓本・写真・実測図) と代表的な論文である「六角宝幢式経筒」『東京国立博物館紀要』第 4 号 (昭和 43 年) 使用図版などを展示し、併せて六角宝幢式経筒の実物資料として草加市・柿木経塚出土経筒 (豊田貞男氏蔵)

と、宇都宮市・聖山公園遺跡 2 号墳出土経筒（宇都宮市教育委員会蔵）を展示しました。

その他、参考資料として、栃木県足利市・鶏足寺出土と伝えられている白磁四耳壺（経筒外容器／足利市教育委員会蔵）も展示しました。

この特別展は平成 28 年 3 月より、品川キャンパス 9 号館エントランスにて移動展示を行っています。

### 【関連事業】

平成 28 年 1 月 23 日（土）に品川キャンパスにて「経塚の諸相」と題した、池上館長による講演会が行われました。

参加者は、一般聴講者が若干名と本学学生を合わせて 30 名程でした。

## NEWS ①

### 品川キャンパス展示

平成 27 年 11 月より、品川キャンパス 9 号館エントランスにて「梵音具—撫石庵コレクション—」を開催しました。

立正大学博物館の主要な資料の一つとして、眞鍋孝志氏が寄贈された「撫石庵コレクション」があります。撫石庵コレクションは、日本の梵鐘を始め、中国・朝鮮・タイ・ベトナム・ミャンマーなどの世界各国の鐘からなります。“撫石庵”とは、眞鍋氏が自身に名付けられた号で、鐘の別称である「青石」から「石」の字を採り、「鐘をこよなく愛する庵の主人」という意味がこめられています。

眞鍋氏は、昭和 5（1930）年 1 月 24 日に愛媛県宇摩郡関川町（現四国中央市土居町）で誕生されました。若いころから病気がちであった眞鍋氏は、昭和 29（1954）年の暮れに病床で聞いた鐘の音をきっかけに、梵鐘研究を始められました。そして、日本における梵鐘研究を確立された坪井良平氏に師事され、日本のみならず世界各地の鐘を蒐集されました。蒐集・寄贈されたコレクションのうち伝・橿原市出土の古代梵鐘は、類例



特別展展示の様子



特別展講演会の様子

が少なく、資料的価値の高いものです。眞鍋氏はこの梵鐘を復元され、複数復元されたうちの 1 口を立正大学博物館に寄贈されています。

今回の品川キャンパス展示では、江戸時代の半鐘や鰐口などの実物展示を行い、併せてパネルにて「撫石庵コレクション」の一端に触れる機会としました。



品川キャンパス展示の様子

## 寄贈資料

せんぼうよう  
仙場右羊氏寄贈中国古瓦コレクション

このたび立正大学博物館に仙場右羊氏が蒐集された百数十点の貴重な中国古瓦コレクションが寄贈されました。仏教系大学の博物館にとっては、誠に喜ばしい資料の寄贈であります。

平成 27 年 12 月 20 日、暖かな冬の陽射しのなか鎌倉市の仙場氏宅において、寄贈資料の受け入れを行いました。当日は立正大学博物館の池上悟館長の指導の下、三宅慶学芸員のほか玉城雄一、池田奈緒子、小林が資料の受け入れ作業に従事しました。

仙場右羊氏（本名：仙場幸男）は神奈川県鎌倉市在住の書道家で、大正 12（1923）年、横浜市生まれ、今年 92 歳になられました。年齢を感じさせることなくお元気で、書道家としてご活躍中であります。現在は公益社団法人日本総合書芸院名誉会長、毎日書道会名誉会員、全日本書文化振興連盟正会員、右心会顧問などをおつとめであります。仙場氏は、三村金羊氏に師事して書道の道を歩まれ、昭和 33 年に日本総合書芸院の設立に参加、平成 4 年に初代会長、その後、平成 24 年には名誉会長に就かれました。氏の作品は上智大学（創立 100 周年記念事業）や鎌倉鶴岡八幡宮に収蔵されています。

昭和 40 年代から書道家として 40 回以上訪中され、その度にご自身が強い関心を寄せられてきた中国の古瓦、とりわけ瓦当の蒐集を続けられました。この間、幾人かの中国人考古学者とも親交を深められました。



仙場右羊氏コレクションの中国古瓦



仙場右羊氏

今回、ご寄贈いただいた中国の古瓦は、秦漢時代（B.C.221～A.D.220）の資料を中心としたものであり、古いものでは西周（B.C.1027～B.C.771）の半瓦当などであります。また瓦当部だけでなく丸瓦部分も一体で遺存している軒丸瓦は、瓦の製作技法を観察するための良好な資料として貴重であります。「長生未央」、「長久楽哉」などの吉祥句のある瓦当も多く含まれています。古瓦のほか、埴や若干の土器・陶磁器、青銅器などの資料もご寄贈いただいたコレクションには含まれています。

ご寄贈いただいた資料については、今後、分類・整理を行い、早期に公開のうえ、寄贈者のご意志に沿うよう学術研究ならびに学生の教育に活用されることを関係者の一人として切に希望するものであります。なお、このたびの資料寄贈にあたっては、鎌倉国宝館の鈴木良明館長にご尽力を賜りました。末筆ではありますが記して感謝を申し上げます。

（立正大学同窓生・鎌倉市役所勤務 小林康幸）

## 寄贈資料

- ・瓦 ……………147 点
- ・埴 ……………5 点
- ・土器 ……………5 点
- ・土器片 ……………10 点
- ・青銅器 ……………8 点
- ・墓誌 ……………1 組 2 点
- ・文献資料 ………2 冊

## NEWS ②

## 入館者数

平成 27 年 4 月 1 日から平成 27 年 2 月 28 日の間、延 207 日開館し、総来館者数は 1,411 名でした。内訳は、一般の方 597 名、本学学生 355 名、本学教職員 53 名でした。以上の期間に熊谷キャンパスにおいてオープンキャンパスが 4 回行われました。その際の来館者数は 406 名でした。また、市民大学等の生涯学習関連の来館が 3 度行われ、その際の来館者数は 215 名でした。

## 出版物

## ◆万吉だより 第 21 号

(平成 27 年 11 月 1 日)

## ◆品川キャンパス展示パンフレット

『梵音具—撫石庵コレクション—』

(平成 27 年 11 月 2 日)

## ◆第 10 回特別展図録『経塚の諸相』

(平成 28 年 1 月 13 日)



品川キャンパス展示パンフレット

## 資料活用

平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 2 月 28 日までの期間に、以下の調査研究・資料貸出を行いました。

## 【調査・研究】

## ◆花輪台貝塚出土石器 (吉田格コレクション考古資料図録 図版第 37-53・54)

利用機関：公益財団法人千葉県教育振興財団

利用目的：関東における縄文時代石器研究の一環

利用期間：平成 27 年 10 月 22 日 (木)

## ◆野島貝塚出土資料 (吉田格コレクション骨角器 1 点・土器片 2 点)

利用機関：公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

利用目的：講座「横浜の重要な遺跡」の発表資料として使用

平成 27 年度講座「横浜の考古学資料 横浜の重要遺跡 part 2」に掲載

利用期間：平成 27 年 10 月 31 日 (土)

## ◆久ヶ原遺跡出土資料 (弥生土器／後期初頭)

利用機関：大田区立郷土博物館

利用目的：特別展のための資料調査

利用期間：平成 28 年 1 月 28 日 (木)

## 【資料貸出】

## ◆称名寺貝塚出土遺物 (吉田格コレクション：土器 9 点・骨角器 31 点・貝輪 3 点)

貸出機関：横浜市歴史博物館

利用目的：企画展「称名寺貝塚とその時代」での展示及び図録掲載

貸出期間：1 月 31 日 (土) ～ 3 月 21 日 (月)

収蔵資料紹介『雅楽多市』と  
久保常晴コレクション泥面子（後）

本紙第 20 号に引き続き、故久保常晴博士蒐集の泥面子を紹介します。

当館には「蒐集の泥面子」\*<sup>1</sup>に報告された 15 点のうちの 14 点を含む 48 点\*<sup>2</sup>の泥面子が久保常晴コレクションとして収蔵されています。

泥面子は、江戸時代後期に作られた、粘土を円盤状に型抜きし、焼成した遊具です。型押しによって表現された火消や干支など、様々な模様がみられるのが特徴です\*<sup>3</sup>。

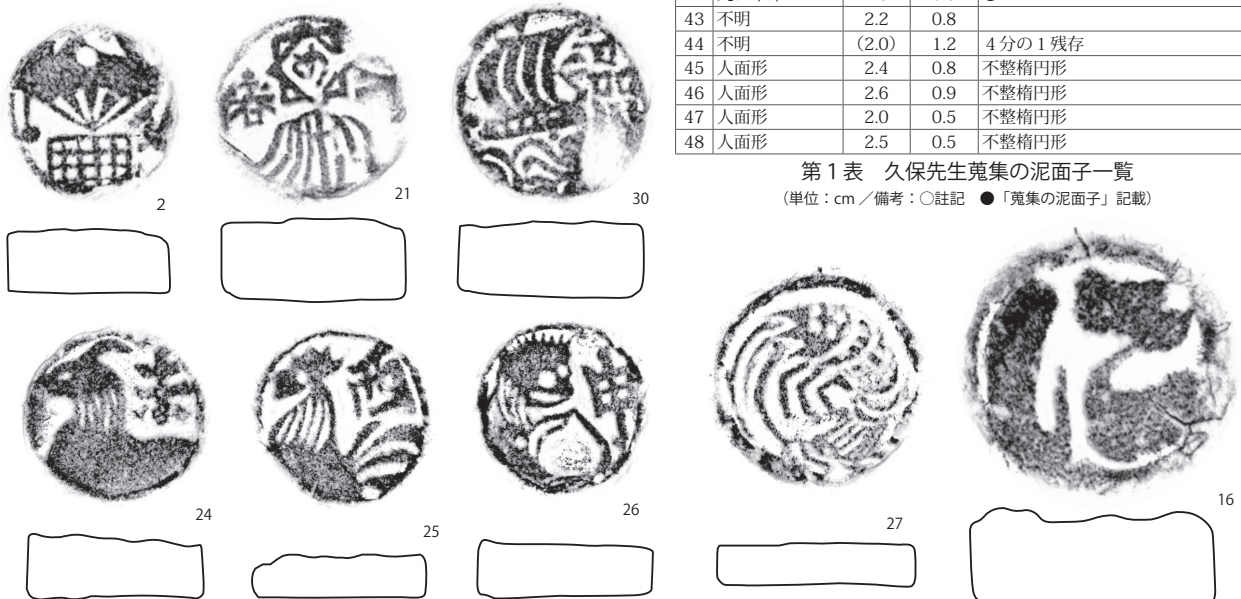
久保博士蒐集の泥面子の詳細は第 1 表の通りです。軟質な焼成で、色調はいずれも橙褐色です。成形・形態については、1～44 は型押し・型抜きによる円盤形、45～48 は型押しによる不整楕円形を呈しています。これらの多くは、「蒐集の泥面子」記載や実物の註記により東京都内や千葉県西部で採集されたことがわかります。また、24～26 の十二支の泥面子は、戦時中に古道具屋にて 1 個 20 銭で売られていたもので、当時としては少し高値であったものの、興味惹かれて購入されたものとのことです。

（立正大学博物館非常勤学芸員 池田奈緒子）

註 1 基文佳也（久保常晴）「蒐集の泥面子」『雅楽多市』第 1 輯 昭和 32 年  
 註 2 前編で 15 点としたが、正しくは 14 点である。  
 註 3 墨田区江東橋二丁目遺跡調査団『東京都墨田区江東橋二丁目遺跡』平成 9 年

No.	モチーフ	直径	厚さ	備考
1	投扇興	2.4	0.7	
2	投扇興	2.3	0.9	●昭和 27 年 8 月頃三田車庫前の工事現場より採集
3	投扇興	2.5	0.8	
4	曲鞠師	2.5		
5	(役者) 岩井半四郎	2.5	0.8	
6	(役者) 市川団十郎	2.3	(0.9)	○堀ノ内 ●堀之内貝塚付近より採集
7	(役者) 市川段四郎?	2.3	1.0	
8	「吉」	2.3	0.8	●大田区雲トル谷貝塚付近より採集
9	丸に「吉」	2.3	0.8	
10	「玉」	2.2	1.1	○谷中
11	「當」	2.3	0.9	
12	「な」?	2.2	0.9	
13	「は」	2.5	0.9	
14	「に」	2.3	(0.7)	
15	「に」	2.1	0.7	
16	「に」	3.2	1.4	○下総堀ノ内 ●千葉県東葛飾郡堀之内貝塚付近より採集
17	「ろ」	2.2	0.9	○下総国分寺大橋貝塚
18	「せ」	2.1	0.5	
19	丸に「ほ」	2.2	0.9	
20	「纏」	2.2	1.0	
21	纏内に「め」・「春」	2.4	1.0	●
22	纏・梯子・ろ組	2.4	1.0	●新宿駅前採集
23	「子」	2.4	0.9	
24	羊に「未」	2.3	0.8	●戦時中、古道具屋にて購入
25	鶏に「酉」	2.3	0.6	●戦時中、古道具屋にて購入
26	猿と桃に「申」	2.3	0.8	●戦時中、古道具屋にて購入
27	丸に海老	2.7	0.6	市川海老蔵か?
28	木菟	2.2	0.7	
29	2羽の水鳥	2.2	1.0	
30	舟と「品川」	2.6	1.0	
31	獅子舞? 鬼?	2.1	0.6	
32	三つ巴 (左)	2.1	1.0	
33	編み目模様	2.4	0.8	○検見川 ●千葉県検見川より採集
34	水面に葉?	2.5	1.2	
35	丸に桜	2.2	0.9	
36	菊	2.2	(0.9)	
37	丸に菊	2.5	0.5	
38	丸に梅鉢紋?	2.4	1.0	●千代田区麴町より採集
39	丸に梅鉢紋	2.3	0.8	●
40	(家紋?)	2.3	1.0	
41	丸に立澤瀉?	2.4	0.9	○目黒不動 ●目黒不動境内より採集
42	丸に米印	2.3	0.9	●
43	不明	2.2	0.8	
44	不明	(2.0)	1.2	4分の1残存
45	人面形	2.4	0.8	不整楕円形
46	人面形	2.6	0.9	不整楕円形
47	人面形	2.0	0.5	不整楕円形
48	人面形	2.5	0.5	不整楕円形

第 1 表 久保先生蒐集の泥面子一覧  
 (単位: cm / 備考: ○註記 ●「蒐集の泥面子」記載)



第 1 図 久保先生蒐集の泥面子 (原寸大)

## NEWS ③

## 館務実習

平成 27 年度の博物館学芸員課程の館務実習を以下の日程で延べ 8 日間行いました。実習生の内訳は文学部学生 5 名、仏教学部学生 1 名でした。

## [資料収集実習事前講義]

◆ 7 月 8 日 (水) 6 限 品川キャンパス  
池上悟館長が、資料収集実習の調査方法について講義を行いました。

## [資料収集実習]

◆ 7 月 19 日 (日)・20 日 (月) 大田区池上本門寺  
池上本門寺の境内墓地において、近世墓標の調査を行いました。調査カードに墓標の型式・年代、大きさ・石材・銘文などの情報を記録し、実測、写真撮影、拓本を行いました。

## [館務実習] 博物館及び、熊谷キャンパス内

◆ 8 月 20 日 (木)  
担当：田嶋和久先生 (文学部社会学科准教授)  
日本刀の概要について学び、刀剣の取り扱いと手入れの実習を行いました。

◆ 8 月 21 日 (金)  
担当：井上尚明先生 (立正大学非常勤講師)  
資料の取り扱いと梱包について学びました。実際に梱包材を作り、収蔵資料を梱包し、開梱する一連の作業を行いました。



館務実習の様子 (梱包)

◆ 8 月 22 日 (土)

担当：池田奈緒子 (当館非常勤学芸員)  
資料収集実習で得られたデータを整理し、台帳の作成を行いました。また、作成した台帳をもとに展示パネルを作成しました。

◆ 8 月 25 日 (火)

担当：川野良信先生 (地球環境科学部教授)  
岩石学の基礎知識を学びました。事前に荒川河川敷にて採集した岩石などを使用し、岩石標本を製作しました。

◆ 8 月 26 日 (水)

担当：石山秀和先生 (文学部史学科准教授)  
古文書の取り扱い方や、調査方法を学び、実際に古文書と和本の調査カードを作成しました。

## 土器焼き

土器焼きは例年、文学部史学科の「考古学実習 6」の一環で行われています。今年度も、平成 27 年 11 月 14 日 (土)・15 日 (日) の 2 日間、博物館が協力し、熊谷キャンパス敷地内において行われました。参加者は、考古学専攻 5 名、大学院生 2 名で講師の竹花宏之先生の指導の下、野焼きで土器を焼成しました。

土器は、縄文土器をモデルとし、品川キャンパスにおいて考古学実習生が製作し、乾燥を十分に行ったのち、博物館に搬入し焼成しました。



土器焼きの様子

## 見学者の声

当館に寄せられたご意見・ご感想をご紹介致します。今後とも、皆様の声を博物館運営や展示に反映できるよう務めてまいります。貴重なご意見・ご感想をありがとうございました。

◆念願だったので来られて嬉しいです。とても興味深く、また貴重なものばかりだったので非常に勉強になりました。(40代・女性)

◆県外、国内の他、海外のものまであり、大変勉強になりました。(55歳・男性)

◆資料がたくさんあって、すごく面白かったです。もっと歴史を学ぼうと思いました。(16歳・学生)

◆素晴らしい展示物に感謝。今後より充実されることを願います。(63歳・男性)

◆たくさんある展示資料を十分に活用されることを望みます。(65歳・男性)

## 利用案内

所在地：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

立正大学熊谷キャンパス内

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

開館日：月・水・木・金・土曜日(大学休業中を除く)

開館時間：10:00～16:00

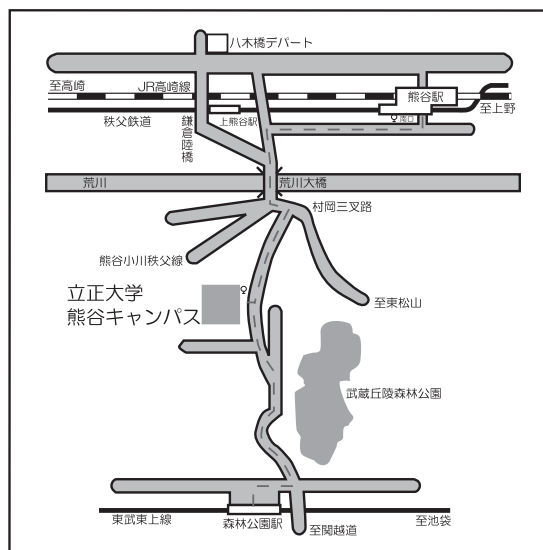
※詳細につきましては、博物館ホームページをご覧ください。

交通機関：

① JR 高崎線、北陸新幹線、秩父鉄道「熊谷駅」下車。南口より立正大学行バス(国際十王交通)で約10分。

② 東武東上線「森林公園駅」下車。北口より立正大学行バス(国際十王交通)で約12分。

お問い合わせ：博物館または熊谷総務部総務課  
(048-536-6010)にご連絡下さい。



## あ と が き

平成27年度は企画展、特別展、品川キャンパス展と、仏教関連資料をもとにした展示を行いました。仏教系大学としての立正大学の特色を存分に発揮することが出来たのではないかと思います。

展示活動のほかに、寄贈された多くの資料を広く活用できるよう、整理・登録作業も継続して進めてまいりたいと思います。

今後も当館への変わらぬご支援の程よろしくお願い致します。

(三宅)

立正大学博物館館報 万吉だより 第22号

平成28(2016)年3月10日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

URL : <http://www.ris.ac.jp/museum/index>

題字揮毫 田淵 観 斎 (立正大学名誉教授)

(印刷：アサヒコミュニケーションズ)